



映画プロデューサー・歌手

藤巻直哉さん

Naoya Fujimaki

Profile

1952年東京生まれ。慶應義塾大学法学部の在学中から「まりちゃんズ」のバンドでミュージシャンとして活動し、カルト的人気を誇る。その後、博報堂に入社し、映画プロデューサーとして、『国の上のポニョ』『風立ちぬ』『かくや姫の物語』など、主要なスタジオジブリ作品に携わる。現在は、博報堂DYMメディアパートナーズ スポーツ・エンタテインメントビジネス局 エグゼクティブプロデューサー。

仕事で大切な精神は「餅は餅屋」
自分だけでやることに固執せず、
妥協しないで得意な人に任せる

映画プロデューサーとして、数多くのスタジオジブリ作品に携わってきた藤巻さん。『崖の上のポニョ』で子役・大橋のぞみちゃんと一緒に主題歌を取っていた人組バンドと言えは思い出す人も多いのではないだろうか。プロデューサーとして、人と人をつなぐ上で大切にしているのは「妥協することにかけては誰にも負けない」と語る藤巻さんに、仕事に対する想いとJWTに関して伺いました。



▲紅白歌合戦終了後の大橋のぞみちゃんと藤巻さんを、鈴木プロデューサーが楽屋でお迎え



▲藤巻さんが参加したバンドのCDジャケット
時代の半歩先どころか、3歩先を進んでいると評された。



INTERVIEW

映画プロデューサー・歌手
藤巻 直哉 さん



その3つ下。団塊の世代が作ったレールの上を走っている感じ。ビートルズもそう。彼らの後に続く人はたくさんいますが、超えてない気がします。なぜ彼らを超えられないのかというと、幼い頃から工業製品に囲まれ過ぎて、“五感”が鈍くなってしまったのも原因の1つかもしれません。私の長女が産まれた時、宮崎さんから「3歳になるまではテレビを見せないほうがいい」と注意されました。子どもには、見て、触って、嗅いで、舐めて、聞いて、五感を鍛えることが欠かせません。テレビを見て、触りたいと思っても、触れないのです。宮崎さんのお話を受けて、当時家にあった3台のテレビを売ってしまいました。そのおかげかどうか、長女は高校の同級生が感知できないような超高周波のモスキート音を1人だけ嫌がっていましたし、匂いにも人一倍敏感になりました。宮崎さんが言うことが当たっているのかなと思わされることが多々あります。

だからこそ宮崎さんは、「ウチの子が何

十回もトロを見ているんですよ」と言ってくるお母さん方へ、「何回も見せなくていい。1回でよろしい。それよりも、サツキやメイのように野山を駆け巡らせなさい」とよく言っています。とにかく宮崎さんは、子どもたちに伝えたいことがたくさんあるんです。私の長女が中学生の頃、自分があこがれている仕事をしている人に取材する「夏休みの宿題」があり、宮崎さんへインタビューしたいと言い出しました。ちょうど『崖の上のポニョ』を制作している時で、30分だけお時間をいただこうと思ったら、子ども相手に約2時間の熱弁(笑)。その際に長女が、「あんな面白い話はどうやって作るんですか？」と質問すると、「考えに考えて、考えに考えて、考えに考えて、考えに考え抜いて、運がいいと神様がポツとアイデアをくれるんだけど、ほとんどは運が悪いんだよね」と答えていました。要は、映画1本作るということでは、人生のすべてをかけるということだと思わされました。

会議中、言葉に詰まる

JWTを飲むことで解消

実は、その長女のインタビューが、『崖の上のポニョ』の主題歌を歌うきっかけになりました。私がもともと藤岡藤巻というバンドで活動していたのと、「普段いいかげんな藤巻さんも父親なんだな」と宮崎さんがその時思ったかららしいです(笑)。最初、大橋のぞみちゃんのみでデモテープを録音していて「こ

れでいいじゃん」と思っていたんですが、宮崎さんが「お父さんの声がほしいな」と。そこで、私も含めてレコーディングしてみると、宮崎さんが「これでいきましょう」と一言。私の会社も出張しているし、売れなかったら私の責任になってしまう。さらに、作曲した久石譲さんも最後まで私の声を入れることに猛反対。「僕の曲が台無しになる！」と怒っていましたが、結局そのまま行くことになりました(笑)。のぞみちゃんは今も芸能界を引退してしまいましたが、先日、高校に合格した時に一緒にお祝いしたんですよ。JWTは知り合いの方から教えていただきました。私の母親はかなりの健康オタク。30年以上前から、ビタミンEやCのサプリメントをアメリカから輸入で取り寄せて、家族・親戚に飲ませていたくらいです。正直言うと、JWTを飲んですぐはどうこうということはなかったんですが、ちょっと前から鈴木さんに「藤巻さん、最近よく言葉に詰まるよね」と会議中に言われていました。喋ろうとしても、昔のように言葉が出てこない。JWTを半年くらい飲み続けたおかげか、今日の取材では言葉の詰まりを感じないですよな? 「立て板に水」のように言葉が出てくる感覚です。味も大好きで、飲みやすくて美味しい。そもそもお茶が好きなんですよ。紅茶より、緑茶が好きでよく飲んでいたんですが、それよりも飲みやすい感じがですね。宮崎さんに会ったら、JWTについて話しておきますよ。いつまでも元気に制作活動続けてほしいですからね。

No.4097 15-72 6/5

ジェイソンティーのEOS発行『Herbal line』2015年5月号より



●希望小売価格：6,480円



慶應義塾大学在学中に、小学校・中学校の同級生と組んで「まりちゃんズ」というバンドを立ち上げました。『尾崎家の祖母(おざきんちのばああ)』でデビューしたまりちゃんズは、1枚目のアルバムがそこそこヒットし、せんだみつおさんが司会をしていた番組『ぎんざNOW!』にもレギュラーが決まりました。しかし、番組で歌った歌詞が攻めすぎていたせいか、放送コードが甘い当時でさえもクレームが殺到し、出演1回で「もう来なくていい」と。全然レギュラーじゃないじゃん(笑)。芸能界ではよく、時代の半歩先が売れると言われますが、3歩先まで進んでしまっていると評されました。実は先日、仲の良い秋元康さんから電話が掛かってきたので出ると、女性の声で「中学時代、まりちゃんズの大ファンでした。アルバムの曲全部歌えます」と言われました。突然のことだったので「あなた誰ですか？」と聞くと、「天海祐希です」と。これには驚きました。

管理職時代に意識したのは

「餅は餅屋」

大学卒業後、広告代理店に就職し、前任者の引き継ぎで、1994年公開の『平成理合戦ばんぼこ』からスタジオジブリ作品と関わるようになりました。日本テレビ編成局の方とも一緒に仕事を

していて、その方の娘さんが『千と千尋の神隠し』のモデルにもなりました。宮崎駿監督が『もののけ姫』の次に何を題材に映画を作ろうかと考えた時に、すごくなついていたその方の娘さんが喜ぶものを作ろうと思ったんです。宮崎さんは、昔から「半径3m以内に大切なものはぜんぶある」と語っていて、世界で起きていることはジブリでも同じことが起きていると。宮崎さんの作品がヒットするのは、たぶんターゲットを1人に絞ることによって臨場感が生まれ、感情移入しやすいからだと思います。よく広告業界が商品開発の際にターゲットとする世代区分で、F1層(20～34歳女性)・F2層(35～49歳女性)というのがありますが、実際は相当に幅広い。結婚している人もいれば、していない人もいます。ターゲットを1人に絞り切ることで、迷った時にあの子だったらどっちが好きかな、どっちが喜ぶかなという判断基準ができるんだと思います。スタジオジブリ代表取締役の鈴木敏夫プロデューサーからは、テレビ共演した際に「藤巻さんは本当に仕事しないんだから」と言われてしまいました。私は一所懸命に仕事をしているつもりでも、周りからは仕事してないとよく見られ、宮崎さんからは“無責任男”の代名詞だったコメディアンから「植木等の後継者」と名付けられました(笑)。ただ、私自身、仕事で大切な精神は「餅

INTERVIEW

映画プロデューサー・歌手
藤巻 直哉 さん

は餅屋」だと思っています。管理職に就いた時も、私が担当したほうがいいことはやるけど、他の得意そうな人が担当したほうがいい場合は、基本的に任せます。「これは君がやったほうがいいよね」「これはあなたがやったほうがいいよね」と振り回していたら、いつの間にか私が仕事していないように見えてしまったのかもかもしれません(笑)。人に仕事を振る上で意識しているのは、「妥協することにかけては誰にも負けない」ということ。チームとしてみんなで協力して仕事をしなければならぬ中、お互いに折れなければ最後は力づくになってしまいます。秋元康さんからは、「藤巻さんは不戦勝の人生だよな」と言われました。

「3歳までテレビを見せるな」

宮崎さんからの苦言

宮崎さんや鈴木さんは団塊の世代。「産めよ、増やせよ」と言われて、子どもが限りなく産まれた世代。現在でも、その世代が800数十万人います。近所で街頭テレビが放映されたり、メンコが流行ったりすると、子どもがうじゃうじゃ歩いて歩けないくらい。そういう時代を勝ち抜いてきたので、その生命力たるやすごい。団塊の世代が経済・芸術・文化、あらゆるものの基礎を東京の焼け野原一面に築きました。私たちの世代は、

暮らしの医学 健康辞典

「病気を呼び込むライフスタイル②」

人々が利便性と利益を追求し続けた結果、あらゆる生活空間で知らず知らずのうちに体はダメージを受け続け、健康を害することにつながっています。前号に引き続き、今号も病気を呼び込むライフスタイルについてお話させていただきます。

食品(人工物)のイメージにだまされてはいけない

3大栄養素は炭水化物・たんぱく質・脂質ですが、ビタミンとミネラル、食物繊維、ファイトケミカル(植物栄養素)を入れて7大栄養素となりました。ファイトケミカルとは、例えばカボチャにβカロテン、トマトにリコピン、大豆にフラボノイド、赤いぶどうにレスベラトロールと言われればお分かりになるでしょう。1粒でコエンザイムQ10が倍とか、フラボノイドが3倍などの表示により、健康的なイメージの商品をつくることができるようになりました。カテキンの取りすぎにも注意するような情報にあるように、短時間の過量摂取は体への負担にもなり得るという考えも大切です。牛乳のカルシウムが骨を丈夫にしないことは周知ですし、「配合」と記載されている牛乳風の飲料もあります。コラーゲンをいくら食べても皮膚には殆どいきません。そもそも自分で作れます。コンドロイチンもヒアルロン酸もグルコサミンも同様で、つまり手次第で何とでもなるのです。実は、健康そうに見える食品はイメージに過ぎず、効果を証明する必要はありません。消化吸収されたあとどこへ行くかは体次第です。このように、イメージが栄養学中心になると食品の形をした人工的な工業食品が次々に生まれてきます。人の体はそんなに単純ではありません。100%天然の体には天然の食材が最適であるという考え方を基本にして欲しいと思います。

除菌という矛盾

除菌ブームはなかなか去りません。多くの人は菌というと嫌悪感を抱くようになってしまいましたが、人間に害となる菌ばかりではないのです。除菌、除菌といって菌を嫌っていますが、何十億個もの乳酸菌が入ったヨーグルトを食べ、納豆菌にまみれた糸を引く大豆を食べ、かびの生えたカサツオの燻製を削って出汁を取り、かびた米から染み出た液体を飲んで酔っ払ったりしているではありませんか。そして、皮膚に1兆個、腸に1000種類1000兆個もの菌を住まわしている。電車のつり革に触れない人もいるようですが、土1gに約10億、海水1mlに1000億の微生物がいて、1回の深呼吸で約1万の微生物が肺に入ります。人の認識とはおかしなものです。人類誕生以前の何億年も前から地球に住んでいる菌類ですが、構造が単純なために、様々な環境適応能力を容易に獲得できる能力を持っています。あの、たまたまナンバリングが157番目の病原性大腸菌O-157も、悪化する環境に対応するためにベロ毒素をつくる羽目になってしまった菌なのです。この菌を元の住みやすい環境に戻すと毒素はつづらなくなるそうです。このように、人類が菌を排除しようとするればするだけ、新たな能力を獲得する菌を生み出すだけです。また、除菌環境は単なる化学物質汚染だけではなく、一度化学物質で除菌すると、除菌し続けない限り悪玉菌の繁殖を許すことになります。それよりも、善玉菌を常に住まわせたほうが清潔と言えるので、毎日ぬか床をかき回した方が部屋中善玉菌まみれになってよいのです。次号では、「病気を呼び込むライフスタイル③」として、人間の生活を支えてくれる必要不可欠な微生物である菌類についてお話させていただきます。



原稿執筆
脳神経外科専門医
田中 佳 先生

1960年、東京都生まれ。1985年に東海大学医学部を卒業後、同大学付属病院脳神経外科助手を経て市中病院にて急性期医療に長年携わる。日本脳神経外科学会認定専門医として、脳神経外科診療を行いつつ、予防医学の教育講演活動に取り組む。

田中先生の診療
かすみがらクリニック(水曜日のみ非常勤)愛子約
〒510-0001 三重県四日市市八田1-13-17 TEL:059-332-2277